

Vol.8 **男と女のくわくわく「なん」**  
**家電製品と家事時間の短縮**

家電製品などの普及は、家事の省力化に大きく貢献してきました。特に電気洗濯機・電気冷蔵庫の登場は、昭和三十年代から四十年代前半にかけて、家事時間を非常に短くする効果をもたらしました。

最近の二十年をみても女性の家事時間は減少傾向にあり、その背景には、多くの家庭の洗濯機が二槽式から全自動に変ったこと、電子レンジの普及に伴い、冷凍食品が多く利用できるようになったことなどが考えられます。

その後も家事の省力化につながる製品が次々に発売されていますが、その中でも著しく販売量を伸ばしているものに無洗米と自動食器洗い機があります。

平成五年の発売当初、わずかに五千トンだった無洗米の生産量は、平成十四年には五万五千トンと百倍以上に増加

しました。また、自動食器洗い機も、近年の小型化・低コスト化により、爆発的な販売台数の伸びを示しています。

無洗米と自動食器洗い機、この二つの製品が共通するのは「便利」とは別に「環境などへのプラス効果」がある点です。どちらも家事の省力化を図ることができる上、無洗米は「米のとき汁が出ないため河川を汚さない」、自動食器洗い機は「節水に有効」といったプラス効果があります。一般には「主婦の手抜き」といったマイナスイメージを持たれがちなのに、このような製品も、このプラス効果により、順調に販売を伸ばしていると思われま

す。家事の外部化も含め、そのサービスマネジメントが一般に受け入れられる要素の中には、「手抜き」と言われるのを和らげる「合理的理由」も含まれているようです。

**教育夢発信** **曾木小学校 オペレッタづくり**

曾木小学校は、毎年オペレッタづくりに取り組んでいます。今年は、曾木の歴史や文化、自然のすべてがまとめた「郷土読本」の中から「狐塚古墳」をテーマに選びました。

早速、みんなで山の中を歩き、ひとつひとつとたえず小さな古墳を見学しました。昔、曾木の村を治めた領主様のお墓だということです。

さて、イメージが膨らんだところで、みんなで知恵を出し合い物語を作りました。「キツネを主人公にしよう」「やさしい領主様にしよう」そして、詩を作り、曲を付けました。そぎつ子が作り、そぎつ子だけが知っている曲が五つ出来上がりました。みんなその歌がとっても気に入って、練習でもすぐに覚え、休み時間も口ずさんでいます。下校の時も分団の子と大きな声で合唱して帰って行きます。

いよいよ役者決めの日です。オーディションにはたくさんの子が出ました。みんな役者をやってみたいので力いっぱいせりふを言い、口を大きく開けて歌いました。役者は十人しかありませんでしたが、みんな一人一人が主役と思って、歌も振り付けも懸命に練習しました。また、オペレッタには欠かせないいろいろな

係も決めました。衣装係はファッションショーをします。大道具係は教室いっぱい古墳作りに汗を流します。伴奏係は音楽室にこもって猛練習です。振り付け係の子が一年生に細かい動きまで丁寧に教えてくれます。グループで助け合い、協力し合って練習しているので、ちっともいやにならず、知らないうちに歌も振り付けも全部覚えてしまいました。

十一月は発表が続きました。収穫祭、曾木公民館祭り、市の音楽会、そして最後は福祉の集いでひとり暮らしのお年寄りの方にも見てもらいました。

僕たちでつくりあげたオペレッタ、私たちが演じたオペレッタ、オペレッタは曾木小の自慢です。



■熱のこもった練習をする子どもたち